

第10回 福岡県地域エネルギー政策研究会 日下座長 総括コメント

- 本日、第10回福岡県地域エネルギー政策研究会を開催し、「新たな再生可能エネルギー（洋上風力発電等）の普及に向けた地方の役割や取組み」について議論を行いました。
- 今回の研究会では、まず中静靖直委員（電源開発（株））から、電源開発（株）における新たな再生可能エネルギーの実用化に向けた取組みとして、「北九州市沖における洋上風力発電の実証研究」「微細藻類を活用したグリーンオイルの一貫生産プロセスの構築に係る研究開発」について情報提供いただきました。
- 次に、梅本和秀委員（北九州市）から、グリーンアジア国際戦略総合特区（指定地方公共団体等：福岡県、北九州市、福岡市）の一環として進められている「グリーンエネルギーポートひびき～洋上風力発電拠点港の形成へ向けて～」に関する情報として、風力発電産業における響灘地区の優位性や、その具体的な取組み内容などを紹介いただきました。
- 次に、事務局から、福岡県における再生可能エネルギーの普及促進に向けた取組みとして、①再生可能エネルギー導入支援システムによる情報発信、②地域の特性を活かしたモデル事例の構築状況などに加え、③農業と連携した取組みである「園芸施設ハイブリッド暖房システム」について紹介がありました。
- 最後に、これらの情報提供を基に、①普及が進む太陽光発電以外の再生可能エネルギー（バイオマス発電、小水力発電、洋上風力発電等）の普及をどのように進めるべきか、②農業など異分野との連携をどのように進めるべきか、③海洋再生可能エネルギーなどの実用化・事業化をどのように進めるべきかなどについて、委員間で討議を行いました。

各委員からの積極的な意見・助言により、「新たな再生可能エネルギー（洋上風力発電等）の普及に向けた地方の役割や取組み」が明確になりましたので、今後の報告・提言に反映させていきたいと考えております。
- 次回の研究会は8月頃に開催し、「水素エネルギー社会の実現に向けた地方の役割や取組み」について議論を行うこととしております。

研究会においては、国の動向等も踏まえながら更に研究を進め、福岡県の将来を大胆に見据えた意見・提言等を行ってまいりたいと考えております。